



## 安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現 NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

発行人 梶 宏

事務所 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809  
TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp
<https://npokakawarukai.or.jp/>

### 訪問看護の不正請求に厚労省も素早く対処

理事長 梶 宏

昨年10月、訪問看護サービスに不正請求があるという報道があり、今年の1月から厚労省が全国的に調査を行うという。素早い対処と歓迎したい。

その不正請求額が20億円を超える法人が摘発された。これは、パーキンソン病患者対象に全国展開をしている老人ホームの現場で行われていたという。部屋に入って最短の時間、患者のようすを見ただけで、許される限り長い時間、看護を行ったと記録する「水増し請求」や、極端な場合は訪問していないのに、患者が確認できないことをいいことに「架空請求」していたという。病気が難病指定されている場合だと、本人の負担がないとか、あっても微細だから、本人にはわからないまま金儲けの対象にされていたらしい。

在宅で終末期を迎える人たちにとって「在宅看護制度」は大変ありがたい制度である。病状の急変がないかぎり、医師による訪問医療が必要とはいえず、適切な訪問看護が大きな癒しになるという実例を耳にする。

私も91歳になった現在、身体が不自由になったときは、たまに看護師に訪問してもらったらそれで十分だと、かかりつけ医と話し合っている。認知症になった場合には誰をキーマンにするかを定め、キーマンとその補助者以外がくちばしを挟むことを禁じる指示書も作成している。

しかしキーマンを定めない、あるいはキーマンをもつことに親しまないまま終末期を迎える人がいることも、残念な現実だ。そういう人の存在を絶好の機会とばかり稼ごうとする輩がいるのもまた現実である。

不正に荷担する安易な自分を許せないと考えた看護師の勇気が、今回の不正を明らかにしたそうだが、労働者としての魂を持っていた当人たちへ拍手を送るとともに、その魂を失わせないためにも、私どもの活動の場を広げたいものだ。みんなが無関心になれば、私たちの社会は崩壊すると思っている。

#### 参考：不正請求の具体例

- ・**サービス内容の振替**: 実際には短時間の訪問（安い単価）だったものを、高単価な別の区分に振り替えて請求する。
- ・**虚偽の訪問記録**: 実際には訪問していない時間帯に訪問したように装い、夜間・早朝訪問看護加算などを不正に上乗せする。
- ・**指示書なしのサービス提供**: 主治医からの文書による指示がない状態で看護を行い、報酬を請求する。
- ・**過剰なサービス提供**: 営利目的で、支給限度額の限界（8割程度）まで不必要的サービスを組み込む「囲い込み」行為。

目	卷頭言「訪問看護の不正請求に厚労省も素早く対処」	1
	1月市民講座・交流会・新年の集いの報告	2～3
	介護保険事業計画の見直しに市民の意見を	4～5
	介護保険利用者の本音や要望を聴く	6
次	シリーズ「私の介護体験」／2月・3月講座案内	7
	会員リレーえっせい／シルバー川柳／会員募集／編集後記	8

# 1月市民講座・交流会・新年の集い

～なごやかに、にぎやかに、  
かかわる会の一年がはじまりました～



日 時：1月24日（土）13:30～16:30 会 場：ひと・まち交流館 京都  
 講 師：吉川正義さん・竹山幸江さん（会員）  
 内 容：1部 ヨーロッパゆったり旅の写真と体験談でリフレッシュ！  
 心がおちつく、やさしい気功  
 2部 会員交流会

## フランスのパリとボルドーで、ワインと料理を満喫



吉川さん夫妻とご友人夫妻4人で、民泊を使った滞在型の旅行に行かれたお話しです。料理好きのご友人の手作り料理のおかげで外食は1回だけ。フランスは農業国。乳製品やワインの種類の多さや安さには感動されたとのことです。ベルサイユ宮殿やボルドーのワイナリーも楽しまれました。デジタル決済、グーグルマップ、ウーバータクシーなど、デジタル化の恩恵を感じた2週間だったとのことです。写真はパリの街角、果物店、ある日の夕食です。

\*\*\*\*\*

## イタリアのラヴェンナでモザイク芸術を楽しむ



イタリアには何度も訪れている竹山さん。今回は東ローマ帝国の首都でもあった古都、ラヴェンナにしばらく滞在されました。5～6世紀に建造された初期キリスト教建築物群が有名で、8つの建物が世界遺産に登録されています。外観は質素なのに壁や天井には光り輝くモザイクが施され、ビザンツ文化の宝庫ともいえるラヴェンナ。写真はラヴェンナを代表するサン・ヴィターレ聖堂、髪のない若き日のキリストと皇后テオドラのモザイクです。

## 気功で、心とからだをゆるめる

美しい写真を見ながら世界旅行をしたあとは、竹山幸江さんの指導のもと、座ったままの姿勢で「心がおちつく やさしい気功」を体験しました。やさしく手をなでる、やわらかに顔を洗うなど、ゆっくりとからだを動かしていくと心もおちついてきます。あちらこちらであくびをする姿も。自分自身をやさしくいたわることの大切さを感じた時間でした。



## 今年の一言を手に、パシャ！

会員それぞれが今年の目標や心掛けたいことを色紙に書いて、その思いを語りました。話題になったのは、「先意承問（せんいじょうもん）」。相手の気持ちを先に察して、自分に何ができるかを問うという意味の仏教の教えで、「和顔愛語（わげんあいご）」に続く言葉だとか。今年も笑顔と思いやりがあふれる1年でありますように。



一人ひとりの言葉はHPで



## 今年も元気に、楽しく！

1部・2部の終了後は京都駅前の居酒屋で新年の集いを開催。講座や交流会には仕事で来ることができなかった会員も加わっての、にぎやかな飲み会になりました。

新年早々、世界情勢も日本の政治も騒がしい2026年の幕開けですが、かかる会は元気なスタートを切ることができました。



# 介護保険事業計画の見直しに市民の意見を

## ～介護保険をもっと知って、大切に育てたい～

### 介護保険のきほんのき

介護保険の「基本的な考え方（図1）」、「仕組み（図2）」や「利用の手続き（図3）」をご覧ください。これらは厚生労働省のHPに掲載されているのですが、介護保険は保険者（保険事業を運営する側）が市町村で、被保険者（保険料を支払い、介護の補償を受ける側）が40歳以上の国民全員であることを特徴としています。

介護保険制度の概要  
(厚生労働省)



### 図1 介護保険制度の導入の基本的な考え方

#### 【背景】

- 高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の増加、介護期間の長期化など、介護ニーズはますます増大。
- 一方、核家族化の進行、介護する家族の高齢化など、要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況も変化。
- 従来の老人福祉・老人医療制度による対応には限界。

高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組み（介護保険）を創設

1997年 介護保険法成立、2000年 介護保険法施行

#### 【基本的な考え方】

- **自立支援**…単に介護を要する高齢者の身の回りの世話をすることを超えて、高齢者の自立を支援することを理念とする。
- **利用者本位**…利用者の選択により、多様な主体から保健医療サービス、福祉サービスを総合的に受けられる制度
- **社会保険方式**…給付と負担の関係が明確な社会保険方式を採用

### より安心な介護保険をめざして

2000年に介護保険がスタートし、在宅あるいは施設で介護サービスを利用することが出来るようになったのは画期的なことでした。いざ介護が必要になったとき公正な要介護認定が迅速に受けられ、専門性の高いケマネジャーによるサービス計画（ケアプラン）が作成され、過不足のない上質の介護サービスが提供されてこそ、安心できる介護保険といえるでしょう。しかし、そうとはいえない現状があり、介護保険の仕組みや介護サービスをめぐる事業計画の見直しがはかられてきました。

### 3年に1回の介護保険事業計画の見直し

介護保険法第117条には「市町村は、基本指針に即して、三年を一期とする当該市町村が行う介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画を定めるものとする」とあります。条文にある基本指針を示すのは国の責任ですから、厚生労働省老健局管轄の社会保障審議

会介護保険部会が審議を重ねて「介護保険制度の見直しに関する意見」をとりまとめます。第10期介護保険事業計画（2027～29年度）に向けての見直しの意見は昨年12月25日に公表されました。

### 事業計画に市民の意見を反映したい

介護保険法には市町村の介護保険事業計画に被保険者（利用者）の意見を反映させる必要性が明記されています。京都市の介護保険事業計画を審議するのは高齢者施策推進協議会（以下、高推協）です。

第10期介護保険事業計画（2027～29年度）立案に向けて、2026年度には計6回の高推協が開催される見込みです。その構成メンバーに昨年8月より当会の笠原あけみ副理事長も加わりました。介護保険を育てるのも私たち市民の役割。利用者にとって望ましい事業計画が高推協で立案されるよう、働きかけたいと思います。

図2

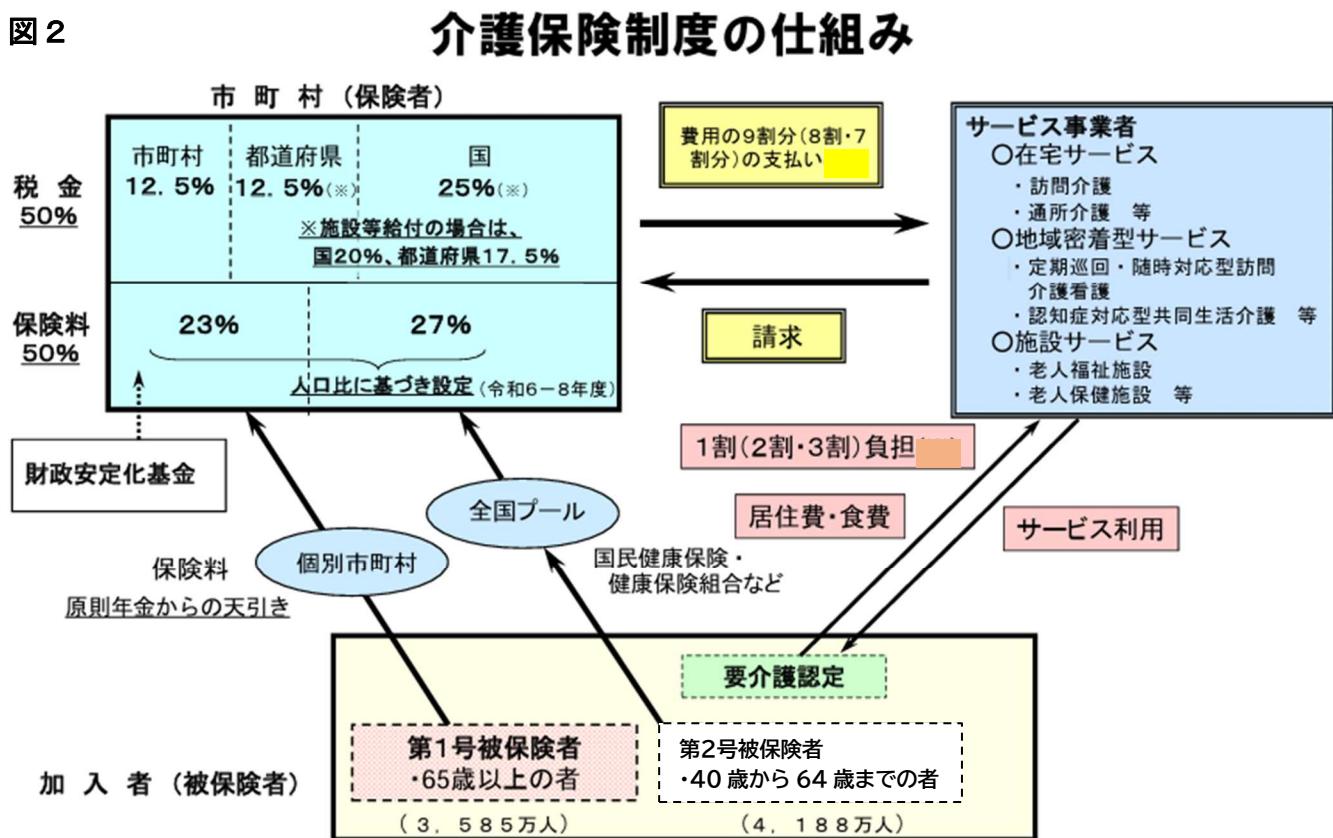
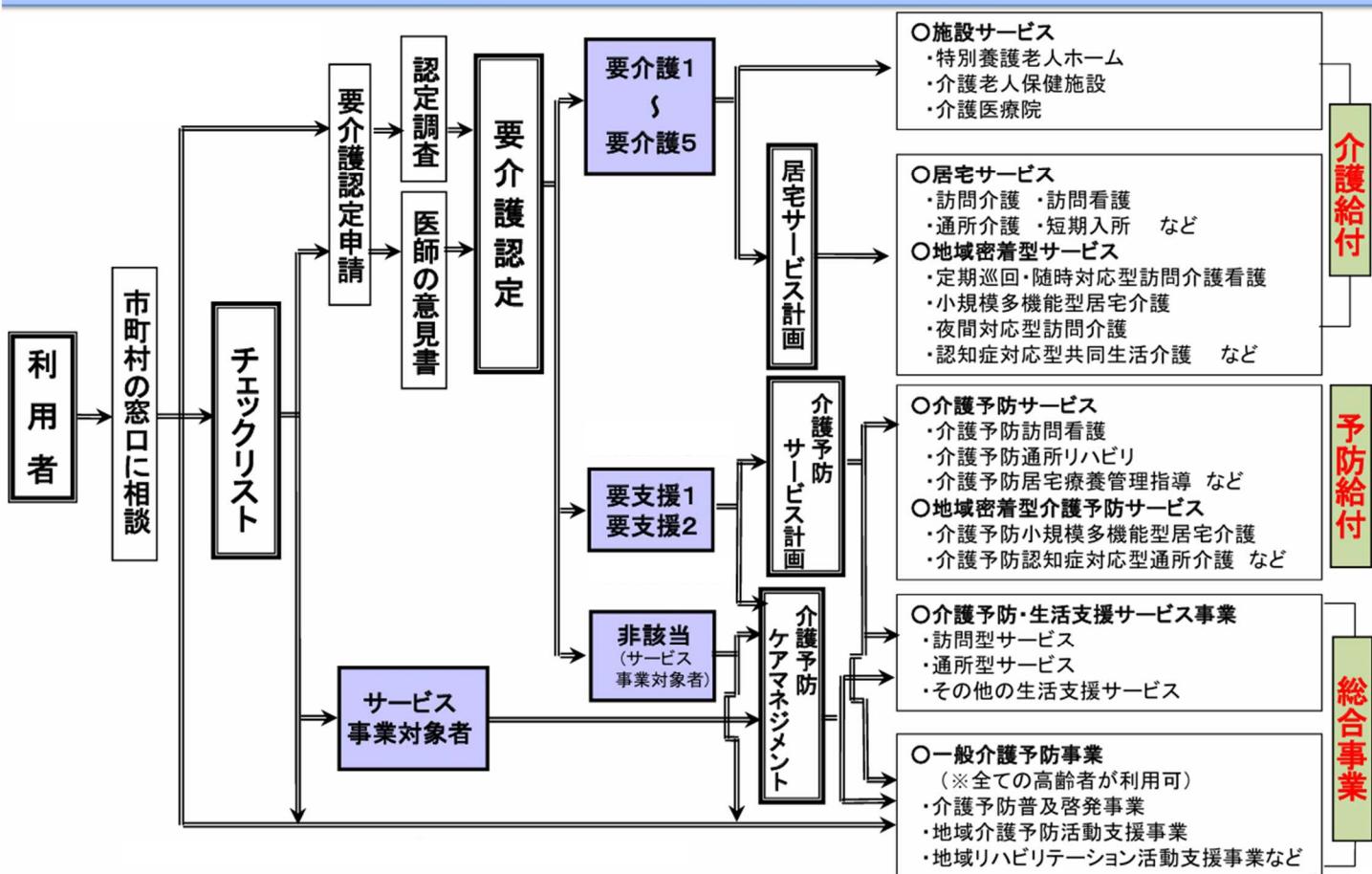


図3

## 介護サービスの利用の手続き



# 介護保険利用者の本音や要望を聴く

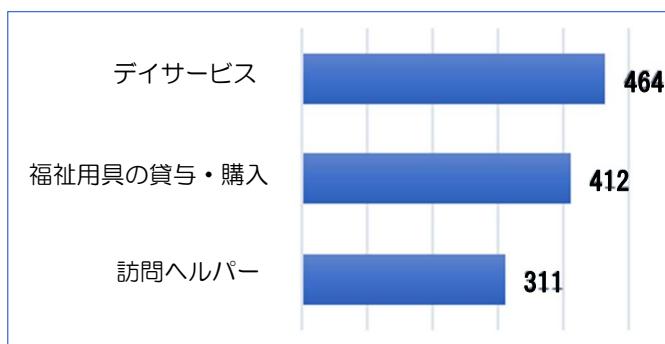
## ～「高齢社会をよくする女性の会」による実態調査の紹介～

「NPO法人 高齢社会をよくする女性の会（以下、女性の会）」は1983年に樋口恵子さんたちによって設立され、望ましい高齢社会をめざす活動をしてこられた。社会保障審議会介護保険部会をはじめ厚労省等の各種諮問機関にも委員を送り出し、市民の立場から鋭い提言をされている。

女性の会は2024年7月に介護保険サービス利用者本人の実態調査を行い2025年3月にその報告を公表された。回答者は770名。その中から注目点をいくつか紹介したい。

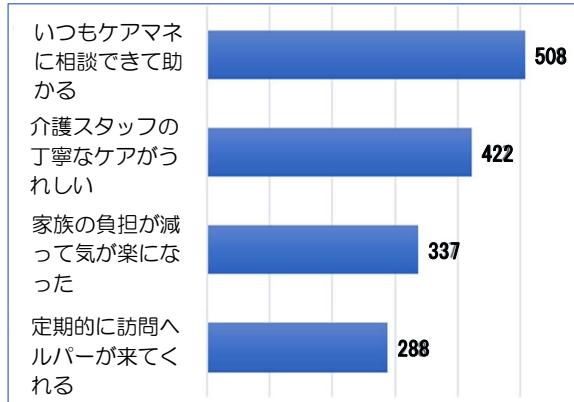
※グラフは報告書にあったグラフから数値の大きなものだけを抜きだした。

### 利用してよかった介護サービス ベスト3



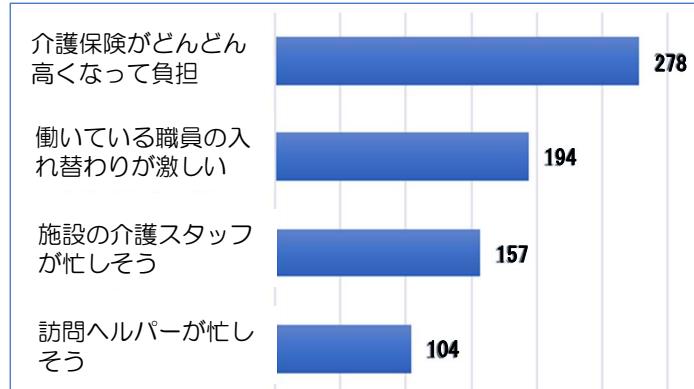
回答者に在宅サービス利用者が多いことから、この結果になったと思われる。「デイサービスに行ってうれしい、ごはんもおいしい、要介護度に関係なく、希望すれば何日でも通えるとうれしい」という声もあった。

### サービスを利用してよかったこと ベスト4



この結果からは、介護のプロによって提供されるサービスが、利用者にとって生活を支える大きな安心になっていることがわかる。

### 介護保険サービスへの不満や疑問 ワースト4



改定のたびに増額される介護保険料が負担になっている。また介護スタッフが職場に定着しづらく、忙しく働くスタッフに話しかけることも遠慮せざるをえない状況があるようだ。その他の不満としては、「同居人がいるということで支援が打ち切られてしまった」という声もあった。

### 女性の会から厚労省への要望

このアンケート結果を受けて、厚生労働大臣宛に3つの要望をまとめ、老健局長に手渡された。

1. 在宅サービスが安定的に確保されるよう、介護人材への待遇と評価のアップを
2. 介護保険料やサービス利用負担が高齢者の生活を脅かさないように
3. 要支援1・2を対象とした総合事業はしっかり効果検証を行って下さい

かかわる会としては、独自の調査研究・政策提言を進めていくが、他団体が実施されている調査研究・政策提言の情報収集も積極的に行い、その知見を活動に生かしていきたい。

（冬木美智子 記）

介護を受ける、介護をする、そのナマの声を繋ぎます

シリーズ「私の介護体験」

## 生活環境が変わると、『人生』が変わる・・・

第27回

安心ライフ株式会社 まごころサポート京都安心店

店長 竹本 均

利用者の姪っ子さんから、ケアマネジャーに、「叔父は、人生の中で今が一番幸せだと思います」という感謝のうれしいお言葉を頂戴しました。

さかのぼること約2年2ヶ月前のこと。いつも生活されている8帖のお部屋。暗い部屋には大量の雑誌や郵便物・DVDや書籍・食べ物・飲み物・衣類etc.が散乱していました。3日間かけて不要物を撤去廃棄。45ℓのゴミ袋100袋以上の物を取り除くと、初めて畳が見えました。

きれいに清掃後、部屋の中央に介護ベッドが設置され、お好きなTVも最高に見やすい場所に設置完了。そこからケアマネジャーを中心に、訪問看護・ヘルパー・福祉用具に加えて、自費の「まごころサポート」の『新しいチーム』が始動し、日々の生活をお支えしています。

一番感動したのはTVが霞んで見えにくいとの訴えがあり、以前通院されていた眼科まで大型車いすでお連れして、メガネを作る事ができたことです。なんと外出されたのは約3年ぶりで、その日は桜が満開の快晴のお天気。「スーパーで買物もええかな」とおっしゃられ、少し寄り道をしてお花見もできました。心地よい春の風の中、「外は気持ちええなー」と笑顔があふれました。

それから事あるごとに、衣服の買物や通販CMで見た商品の購入、玄関先の木の剪定などのオーダーをいただきます。訪問させていただくと笑顔で饒舌にお話しされます。

そして何より、お部屋があの日から『清潔』なまま、きれいに維持しておられるのです。これからも一緒に、笑顔あふれる素敵な生活をサポートさせていただきたいと、日々願っております。

第150回  
市民講座  
案内

## 基礎から学ぶ介護保険 ~在宅サービス編~

介護が必要かもしれないと思ったとき「まず何を考え、何から始めればいいのか」。その最初の一歩を、わかりやすくお伝えします。  
在宅サービスを中心に、その種類や内容、利用で得られる効果など。

日時：2月22日（日）13:30～16:30  
会場：ひと・まち交流館京都 3階第5会議室  
講師：西村聰さん（公益財団法人 京都府介護支援専門員会理事  
醍醐・北部地域包括支援センター センター長）

第151回  
市民講座  
案内

## とっつきにくい介護保険 ~これを聞けばかかわる~

介護保険は最初の目標から大きく外れて、どんどん悪くなっています。そして、介護保険を普段の話題にするには、あまりにも複雑になってしましました。制度の準備段階へ遡って、だれでも分かって、だれでも話せる介護保険をさぐります。

日時：3月28日（土）13:30～16:30  
会場：ひと・まち交流館京都 3階第5会議室  
講師：折坂義雄さん（きょうと介護保険にかかわる会 理事/  
元佛教大学教授/元京都市保健福祉局長）

## 会員リレーえっせい⑧〇

田中 ひろみ



「アラフィフでヘルパーはじめました」著者ゆらりさんとのツーショットで、右側が私です。

## 「私の人間愛と動物愛の原点は」

幽霊会員の田中ひろみと申します。かかわる会の研修会に参加し始めたのは、梶宏理事長の奥様主催のお琴の演奏会で、偶然私が理事長に福祉の勉強（農福連携に興味があった）をしたいと思っていることをお話をした際、かかわる会を紹介していただいたのがきっかけです。

かかわる会の研修会は一方的に聴講するのではなく、グループに分かれて意見を出す等、自分で考える時間が勉強になります。私はいい話だなーと納得してしまいがちで、要約すること、発展させることができ大変苦手なので、脳の刺激になります。講師の著書が購入できるのもお気に入りです。ただ、研修会のお手伝いもしないし、運営に関われる技量もないのを申し訳なく思います。

神戸市垂水区出身で結婚後、京都市左京区に住んでいます。幼児のころから動物が大好きで裕福ではなかったけれど、家族が鳥や金魚を飼育させてくれ、ご近所の犬を散歩させてもらえる環境で、動物愛護の精神が醸成されたように思います。

当時、小学校には養護学級なるものが各学年に存在していました。知的障害があれば、強制的にその学級で授業を受けなければならず、差別的な扱いも

ありました。先生の体罰もあったし、それなりに仲良しグループでの虐めもありました。要領が悪い私がまとも（人間愛や良心を持つ、自分ではそう信じている）に育ったのは、周囲に色々な人がいたお陰と思うのです。

ご近所に盲学校の先生が住んでおられ、一緒にバス停から家まで歩く際に、手を繋ぐのではなく、「肩か肘を教えてもらうと歩き易い」と教えてくれました。タクシーから降りた高齢の男性の車いすを広げるのを手伝うと、タクシーの運転手さん（友人の父）に褒めてもらえた事も。ノルウェー人の男の子が私の後にくっついて一緒に家に帰つて来た時も、母はびっくりせず一緒におやつを食べさせてくれたし。背中に入れ墨が入っている父を持つ同級生の家にも遊びに行かせてくれたし、回覧板もちゃんと回していたような。

アチコチ話が飛んでしまいましたが、自分の知らないことを知ろうとする、共感することが、人生で大切だと思っているのです。今後も幽霊会員ながら研修会で勉強させて頂けたら。よろしくお願いします！

## シルバー川柳

## 会員募集中

詳しくは下記のQRコードからどうぞ



忘れぬ人はいるけど名を忘れ  
お迎えはどこから來ると孫が聞く  
春風に帽子とられて杖で追う

出典：(公社)全国有料老人ホーム協会

## 編集後記

「レクリエーション」という言葉は、ラテン語の *recreatio* に由来し、「心身を回復させる」「気力を取り戻す」という意味を持つらしい。

1月の交流会でKさんが「ボウリングにハマつてワクワクしている」と話しておられたが、そのワクワクこそがレクリエーションの本質なのだ。私ならスキー。Yさんは合唱、Mさんは尺八、Fさんなら新聞の切り抜きだろうか。元気の素は人それぞれで、面白い。

介護施設でもレクリエーションは重要だが、ときどき「盛り上がったから成功」という話を耳にする。どうも、皆で一緒に歌ったりゲームをしたりすることが、レクリエーションだと信じられているようだ。

集団ではなく、一人ひとりに向き合い、その人の経験や価値観と結びついた「元気の素」を見つけ出すことが大事だと思うんだけどなあ・・・。(M)